

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 88 号 2022 年冬号

2022 年 3 月 4 日発行

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行
発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415
<http://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会によせて

柏市環境部環境政策課

宮崎 太陽

今年の総会も新型コロナウイルス禍のために、開催することができませんでした。そこで今回いつもなら総会の席でいただきご意見を、柏市環境政策課の宮崎氏と幹事の佐藤さんから「ビオトープ便り」に投稿していただきました。

平素より柏市の環境行政につきまして、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、日本での新型コロナウイルス禍に入ってから二年、未だ収束の見通しが立たない状況が続いております。名戸ヶ谷ビオトープを育てる会におかれましては、収穫祭や総会の二年続けての中止など残念であるとともに、各種催しの開催方法の見直しなど、大変なご苦労があったものと推察致します。

このような厳しい状況下、自然を愛する市民の皆様が行政と手を携えながら地道な環境保全活動を継続された結果、都市化が進んだ柏市において、かつてこの地域に存在した風



写真は三角池に捨てられた柑橘を食べるメジロ
(小笠原さん撮影)

景を現代に残す自然あふれる湿地環境としたことのみならず、こうした環境を好む生きものの生態系の循環を生み出したほか、家族連れでの散策など市民の憩いの場として愛され親しまれるまでになりました。

現在、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会のみならず、多くの市民団体が担い手不足という課題を抱えております。行政としましても、課題解決に向けたお力添えが出来るよう尽力して参りますので、今後とも引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

会の活動について思うこと

佐藤 郁子

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き本年も定期総会の開催を見送ることとなりました。節目となる第20回目の総会でした。これまで会を維持継続されてこられた諸先輩の皆さまには、感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。総会で集うことが出来なかったのは残念でしたが、今年度も会員が力を合わせ実り豊かな活動になることを楽しみにしています。

ニホンアカガエルなど希少な生きものや植物の宝庫のビオトープですが、活動の担い手の高齢化が「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」の最大の課題です。田んぼの面積を減らしたり脱穀機を購入したり、知恵を集め工夫しな

がら維持管理を続けているのが現状です。しかしながら、ザリガニ釣りに興じる親子連れや、それを温かいまなざしで見守る散歩のお年寄りの姿に、こののどかで自然豊かな環境ができるだけ長く続くよう願っています。「その一助になれば」との思いから微力ではありますが会の活動に参加しています。そんな思いを持った仲間が、1人でも多く会に加わって頂けたら嬉しいです。

稲刈り、脱穀が終わった今年の秋には新型コロナウイルスの感染拡大が収束。中止していた収穫祭を開催して懇親を深めることができることを願っています。

冬のビオトープ



わき水のたえないビオトープの田んぼは、稲のかりとり後も水がたまっています。枯れた苗の切りかぶでいちめん茶色く、生き物の気配は感じられませんが、まず目につくのは鳥たちです。木道を歩くと、人間が近づいてくるのに気づいた様子でガサガサっと音を立て、カモやムクドリが逃げていきます。彼ら

は冬の寒い日にも根気強く食べ物を探しているようです。

調査のためにあぜに降りて歩くと、靴やズボンにふたつトゲのついたアメリカセンダングサの種がたくさんくっつきました。帰化植物で夏に増えすぎるため、たくさん抜き取るのですが、それでも花を咲かせたものが実を

つけ、今は茶色く横たわっています。同じキク科で在来種のタウコギは少し小ぶりで、秋によく似た姿で見つかります。どちらも一年草で根が残ることはないので、種で誰かに運んでもらおうとする戦略で生き残ります。

ニホンアカガエルは他のカエルに先がけて、オスとメスが出合い、水中に産卵します。1年を72に分けると、2月はじめの立春を過ぎた日を「東風解凍（はるかぜこおりをとく）」と古来から呼びならわしているように、春を感じる日もあります。朝晩の冷えは厳しくその後も田んぼの表面がこおります。そのためか少しだけ深く、日当たりもいい場所で2月中旬くらいから卵が多く見つかるようになります。

視線を上にあげると、晴れた日には冬木立が青空に映えています。ビオトープでは湿地に多いハンノキが大小林立しているのがわかります（上部写真）。落葉樹で冬には葉は落ちていますが、しっぽのようにたれさがっているのは雄花で、小さな松ぼっくりのような実もまだたくさんついたままになっています。

ハンノキの葉はミドリシジミという小さな

シジミチョウの幼虫が食草とすることが知られています。図鑑ではオスの成虫は緑色の金属のような色をしていてとても美しく、初夏にいちどだけ発生し、ペアをつくり産まれた卵がそのまま冬を迎えることになる生態のようです。ビオトープではここ数年見かけたことがありませんが、いつか目にすることがあるといいなと思います。

ほか、いくつかのヤナギの木も葉を落とし、カワヤナギはふわふわしたうぶ毛をまとった冬芽を少しずつふくらませています。

ヤナギの枝や幹にはコムラサキという蝶が幼虫で越冬することが知られていますが、こちらもなかなか見かけることがありません。

ビオトープの日当たりのよい斜面には、園芸種の球根や木々も植えられています。ボケはバラ科の木の中でも早くつぼみがふくらみ、花を咲かせます（下写真）。

待ち遠しい春ですが、冬だからこそその景色を眺めたり、隠れている植物・生き物を想像し探す楽しみを見つけていきたいものです。

（高橋 紀子）



月例活動状況のお知らせ（12月から2月まで）

12月18日（日）

朝からくっきり晴れ上がり北西の冷たい風が吹いていました。年末の大掃除で、枯草の刈取り、木々の剪定、木道の清掃、ザリガニ釣り場のヨシ刈り、ごみ回収などを1時間ちょっとで終わりました。会員17名参加で終わってから女性会員手作りの料理を美味しくいただきながら、今年を振り返り意見交換をしました。



Bゾーン北側木道沿いの草刈り



井戸ポンプ周辺の清掃



ヨシ刈取り後

1月22日（土）

快晴となり、冷え込んで氷が一面ビッシリ張っていました。例年どおり、ニホンアカガエル産卵場所の整備でAゾーン田んぼ畔沿いの掘り起こしとBゾーン中央木道沿いの池の掘り起こし作業を行いました。2月初旬頃から卵塊観察会を予定。作業終えて今年総会は中止で、会員へ総会議案報告書を配布しました。



Aゾーン畔沿いの掘り起こしと掘り起こし後（右側）

2月19日（土）

曇り空で一部氷が張っていました。内容は、ニホンアカガエル卵塊観察会と木道延長工事 Bゾーンの予定を、延長工事は、ぬかるみで足場も悪く作業は取り止めとなりました。観察会だけを実施し、会員らが見取り図を手にA、Bゾーンを回って卵塊数を書き込んで当日は55個を確認です。14日初回に11個を確認してから一気に増えました。アカガエル資料の配布と説明をして無事に終わりました。

（藤平 三郎）



Aゾーン田んぼの卵塊を観察中



アカガエル卵塊

ニホンアカガエル卵塊の観察会

1月30日（日）から2月26日（土）まで5回に渡り観察会を行いました。前半は冷え込みが厳しくあたり一面に氷が張ってまったく確認できませんでした。

後半の2月19日（土）定例活動日で多くの会員が参加し55匹を観察できました。観察会以外で、2月14日、初めて小川さんから11個を確認、2月16日小笠原さんから18個、2月20日小川さんから101個と確認の報告がありました。最終日2月26日は、更に増えて111個でした。

特に休耕田で39個と一番多く、又もち田No.3では既に孵化が始まっています。

日差しが暖かくなると共に一気に増加です。3月からはバトンタッチのヒキガエル卵塊が観察できます。これから無事に成体となって生き残りをはかって欲しいです。（藤平 三郎）



会員らが卵塊観察中

年	月 日	天気	気温	合計	Aゾーン	Bゾーン	参加者	その他の確認日	
2022	2月26日	晴れ	9°C	111	110	1	8名	2月20日	101個
	2月19日	曇り	4°C	55	54	1	14名	2月16日	18個
	2月12日	晴れ	4°C	0	0	0	3名	2月14日	11個
	2月6日	晴れ	4°C	0	0	0	10名		
	1月30日	薄曇り	5°C	0	0	0	2名		
2021	2月27日	晴れ	6°C	124	121	3	9名		
	2月20日	晴れ	14°C	67	59	8	15名		
	2月13日	晴れ	13°C	0	0	0	9名	2月14日	4個
	2月6日	晴れ	10°C	1	1	0	13名		
	1月30日	晴れ	10°C	0	0	0	11名		

卵塊推移表



ニホンアカガエルの卵塊



卵塊が崩れて孵化が始まり

ホタル広場（回生の里側広場）東屋の ベンチ補修です

ホタル広場には東屋があり、散歩に来られた方の休憩場所になっています。

だいぶ前からベンチテーブルの下からライターのようなもので燃やしたいたずらがあり、大きな穴になってしまいましたので厚板で補修しました。（小笠原 智）



テーブルの大きな焦げ穴



厚板で埋木補修をしました

3～5月の活動予定

- 3月 ●19日：3月定例活動日（稲株踏み）
 - 4月 ●16日：4月定例活動日（肥料散布・田植えの準備）
 - 5月 ●21日：5月定例活動日（田植え 予定日5日）
- 注）詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）